

会員のひろば

題字：英 保寛

◇3月に退職したばかりなので「学校現場から…」にはそうだ、そうだと思いながら読みました。学校に求めすぎ！と感じていましたから…。進学校しか経験がなくまた直接進学指導をしたわけではありませんが先生方の日常をみていると本当に大変だなと思います。専門の先生をもっと増やして欲しいですね。

(榛東村・加納順子)

◇おもしろい！近現代史ゼミが良かった。「慰安婦」がよくわかった。

(渋川市・中村幸生)

◇志村五郎著「数学の好きな人のために」ちくま学芸文庫のあとがきを読んでいます。『Aが成り立つための必要十分条件はBである』という表現をよく見かけるがこれは正しくない』とありました。このことについてまったく疑問をもたずに数学教師として過ごしてきました。どなたか「育ちと学び」で考察いただけたらと思います。

(藤岡市・新井基和)

◇すごいボリュームのある編集です！特に「福島に生きる」取材にいてシカに高校生や先生に会えてよかったです。

五日制になってからの塾と学校の関係、けいこ事の種類、土曜日の生活のしかたは個々で随分違うのでしょね。見当もつきません。現代っ子の生活を知りたいです。

(沼田市・加藤雪子)

◇毎回のことながら内容が豊かですね。小中学校に40年も勤務しながら、今更のように我が身の貧弱さを痛感いたします。ただ「育ちと学び」ということは私も現職中からずっと気にかけていたことです。これからもよろしく願います。

85歳の老年者です、子どもとか教育とかに直接関係ないので、フォーラムの活動には関心があります。

(足利市・田部井三郎)

◇「福島に生きる」感動しました。「答えを見つけていく学習」。その通りだと思いました。「市塚さん」のレポート。日韓の友好のあり方、「複眼の目」、大事だと思いました。

(前橋市・大川正治)

◇「福島に生きる」の特集は現地訪問でしか解らないことが判り、あらためて原発の実態・深刻さを理解しました。(前橋市・備藤寛)

◇すなっぴ「福島に生きる」文化祭での生徒たちの感動的なとりくみの様子、別の高校では多くの不安を抱えながらも地元に貢献した

い生徒がたくさんいることなど、読み応えがありました。

(前橋市・小川たつ子)

◇新運営委員の北川淳さんの「観音山野鳥の森ハイキング」の報告、いいですね。正に機関誌名『育ちと学び』です。北川さんも空手の先生ではありますけれど、経験豊かな元高校教師(現役の方はいらっしやるのかしら?)スタッフにはない若さの視点からも期待するものがあります。ついでながらスタッフを広く募集したらと思います。様々な職種の人が社会を構成しているのですから。私にはまだ『高校教育研究所』のイメージです。『脱』を求めているのでしたら。辛口でごめんなさい。

昨日娘の住まいから近くの美味しいパンを焼いているお米屋さんで絵描きの人と出会い、店の女主人と長い立ち話になりました。その中で、子どもに絵の指導を頼まれて学校で教えているそうですが、一人一人とのコミュニケーションを大切に絵を描かせると、以前と全く違ったその子の自信に満ちた絵になると聞きました。群馬にも絵の指導で来られたそうです。

(前橋市・藤原麗子)

◇少しずつ実践的な内容が増えてきてよいと思います。ほかの団体紹介ではなく、自分たちの活動を述べて意見をうかがい、力を付けていくことが大切だと思います。

(前橋市・野村哲)

◇福島―フクシマの今に全力で立ち向かわれた取材チームのおひとりおひとりの勇氣と本氣に心からの敬意と感謝をささげたく思います。ありがとうございます！

(高崎市・エイムズ唯子)

◇「トピック1」について、市塚さんの主張に「知的誠実」さを感じました。同時にこれだけのことを「書く」という行為への勇氣も…。お互いの理解とズレは、特に国と国とであれば、ひとり一人の国民の対話と交流でしか解消できないと思う。決して圧力や武力ではない。

「すなっぶ」について、福島への取材、お疲れ様でした。取材された皆様も聞くことが辛かったのではないのでしょうか…。本当に胸が潰れそうに痛くなります。どうにかできないものか、悩むしかないのか、再稼働阻止もできるのか…。答えのない問いに向き合う強さを持ち続けたいと思います。

(高崎市・戸澤由美恵)

◇若い人の元氣な活動に感服しております。

(高崎市・芹澤和)

◇3月末、春休みの家族旅行(妻、小学1年生、1歳8か月オール女性)で、初めて韓国ソウル3泊4日の旅に出かけました。食事なし、航空券とホテル代だけのフリーツアーです。ホテルの室内説明、食堂のメニュー、地下鉄やバスの案内、観光地の説明 e t c 全部単一文字(ハン

グルというところは教えました)にびっくり。小学1年生の長女いわく「どうして日本は、漢字・ひらがな・カタカナの3つの文字を使うの?なぜ?」小生絶句しました。

(東京都・胡口靖夫)

◇今回、ぐんま教育文化フォーラム・群馬子ども権利委員会が共同企画で公開シンポジウムが出来ることは良いと思っています。

私も富岡9条の会で、福島県南相馬に一泊し、原発・放射能の現状を見て来ましたが、まだ町には誰もいませんでした。また、約1000頭くらいの牛が牧草の中にいましたが、いつ死亡するか心配になりました。

東電の無責任な発言を聞いていると今後の福島県の住民の生活にますます不安がつのります。

(富岡市・藤井幸一)

◇「複眼の目で歴史を見る」は、我が国のこと、韓国のこと、知らないことが多くて、驚きつつ読みました。他の方々のお考えも伺いたいです。「秘密保全法」は、かつての怖い日本が再来するのではと思いつつ伺いました。われらの内藤先生のご発言は、いつも通りの歯切れの良さで、大拍手を捧げましたよ。

「福島に生きる」最後の「答えのないこと」に答えを見つけていく、考えさせる、話し合う」が心にしみました。

(藤岡市・水沼武彦・安美)

◇さまざまな情報参考になります(また敬意を表します)。ただ残念なのは学校現場の現状が反映されていないことです(特に授業)。

(桐生市・田島孝保)

◇毎号、内容の充実、レベルの高さを感じています。編集、執筆者の方々に感謝です。

(伊勢崎市・飯島三千男)

◇「すなっぶ」福島に生きるの記載内容および、表紙のみなさんのスナップ写真は実情が伺えて大変良かったです。皆様方のご苦勞を決して風化させないためにも、是非とも「すなっぶ」続編をお願いしたいと思います。

(前号の富山さんの質問「尾瀬をいとしむ会」の命名について)

「尾瀬をいとしむ会」は、当初「尾瀬を愛おしむ会」と命名したのですが、「尾瀬」の愛好会には類似の名称の団体がたくさんあり、登録不可。そこで、広辞苑で同意とされている「いとしむ」を採用し、ひらがなで表記したところ登録できた次第です。

(前橋市・英保寛)

◇充実していると思いました。

(伊勢崎市・白石ひろ美)

【順不同／敬称略】